

発掘調査の概要

平城宮東朝集殿の調査(平城第394次)

平城宮の東よりには第二次大極殿院^{だいごくでんいん}、朝堂院^{ちやうどういん}、朝集殿院^{ちやうしゅうでんいん}が南北にならびます。朝集殿院には2つの朝集殿が左右対称にあります。東の朝集殿は、1968年に発掘調査され、礎石建ちで瓦葺きの南北棟建物であることが確認されています。

その後、第二次大極殿院と朝堂院には、礎石建ち建物の下層に掘立柱建物があることが明らかになりました。これらの建物を取り囲む区画施設も掘立柱塀から築地塀に造りかえられています。近年の調査では朝集殿院の区画も掘立柱塀から築地塀に造りかえられていることがわかりました。

今調査の目的は、東朝集殿下層建物の有無を確認することにあります。調査は10月3日から開始し、現在も継続中です。10月中頃に、埋戻土の上面から地中レーダーによる探査をおこないました。朝集殿基壇の範囲を再度確認したほか、基壇周囲に広がる溝を新たに検出しました。

これまでの調査では、基壇の上面にのこる礎石抜取穴や礎石据付穴、足場穴の痕跡を検出しました。また、基壇周囲にひろがる崩れた凝灰岩を取り上げ、基壇を造営する際の堰板^{せきいた}を支える杭の痕跡や、基壇外装の凝灰岩を抜き取った溝、掘立柱列、そのほか多数の穴を検出し、写真撮影を終えたところです。

今後は地中探査を再度おこない、下層建物の有無を確認するための断割調査をおこなう予定です。

(平城宮跡発掘調査部 今井 晃樹)



事前の地中探査風景



東朝集殿の基壇全景 北東から